

ヨハネの第一の書

第一章

一 太初より有りし所のもの、我らが聞きしところ、目にて見し所、つらつら視て手觸りし所のもの、
 二 即ち生命の言につきて、——この生命すでに顯れ、われら之を見て證をなし、その曾て父と偕に
 三 在して今われらに顯れ給へる永遠の生命を汝らに告ぐ——我らの見しところ、聞きし所を汝らに告ぐ、これ
 四 汝等をも我らの交際に與らしめん爲なり。我らは父および其の子イエス・キリストの交際に與るなり。此等の
 五 ことを書き贈るは、我らの喜悅の満ちん爲なり。
 六五 我らが彼より聞きて、また汝らに告ぐる音信は是なり、即ち神は光にして少しの暗き所なし。六もし神と
 七 交際ありと言ひて暗きうちを歩まば、我ら偽りて眞理を行はざるなり。七もし神の光のうちに在すごとく光のう
 八 ちを歩まば、我ら互に交際を得、また其の子イエスの血、すべての罪より我らを潔む。八もし罪なしと言はば、
 九 是みづから欺けるにて眞理われらの中になし。九もし己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ、我ら
 一〇 の罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給はん。一〇もし罪を犯したる事なしといはば、これ神を偽者とするな
 一 神の言われらの中になし。

第二章 一 わが若子よ、これらの事を書き贈るは、汝らが罪を犯さざらん爲なり。人もし罪を犯さば、我等

イ約一・二、二 (約壹 二・二、三、一四)	二五 提前三・一六	哥前一・九	ソ提前六・一六を見、 井約壹五・一〇 (約三 ・三三)
ロ約壹一・三 (徒四・ 二〇)	彼前一・二〇 約壹 三・五、八 (約壹五・ 二〇)	ヲ約三・二九を見よ ワ約壹三・二一 (約一 ・二九)	ツ察二・五 ネ來九・一四 歌七・ 一四 (多二・一四) 才約壹二・二二、二八、 三・七、一八、四、 四、五、二一 約壹 四・約一三・三三 加四・二九
ハ約壹一・二 約一九 ・三五 彼後一・一六 二約壹四・一四 約一 ・一四	チ約壹四・一四 約一 五・二七を見よ リ約一・一 又約壹三・二五、五、 一、一三、二〇 約 一〇・二八を見よ 一七三	カ提前六・一六 (雅一 ・二七) ヨ約壹三・一一を見よ (約八・二二 哥後六 ・一四 弗五・八) タ約八・五五 (約壹二 ・四、四・二〇) レ約三・二一	ナ伯一五・一四 彼二 〇・九 羅三・一〇、 一一 (雅三・二) ラ約壹二・四 約八・ 四四 ム詩三二・五 箴二八 ・一三 ウ撒後三・三
ホ路二四・三九 (約二〇・二七)	一〇・二八を見よ 一七三	タ約八・五五 (約壹二 ・四、四・二〇)	ク羅八・三四を見よ 提前二・五
ヘ約一・一、四	一七三	レ約三・二一	
ト約一・四 羅一六・ ル約一七・三、二一	一七三	レ約三・二一	

二 のために父の前に助主あり、即ち義なるイエス・キリストなり。ニ 彼は我らの罪のために宥の供物たり、吾に
 四三 我らの爲のみならず、また全世界の爲なり。三 我らその誠命を守らば、之によりて彼を知ることを自ら悟る。
 五 『われ彼を知る』と言ひて其の誠命を守らぬ者は、偽者にして眞理その衷になし。五 その御言を守る者は、誠に
 六 神の愛その衷に全うせらる。之によりて我ら彼に在ることを悟る。六 彼に居ると言ふ者は、彼の歩み給ひしごと
 く自ら歩むべきなり。

七 愛する者よ、わが汝らに書き贈るは、新しき誠命にあらず、汝らが初より有てる舊き誠命なり。この舊き
 八 誠命は汝らが聞きし所の言なり。八 然れど我が汝らに書き贈るところは、また新しき誠命にして、主にも汝らに
 九 も眞なり、その故は眞の光すでに照りて、暗黒はややに過ぎ去ればなり。九 光に在りと言ひて其の兄弟を憎むも
 二〇 のは今もなほ暗黒にあるなり。一〇 その兄弟を愛する者は光に居りて顛墮その衷になし。二二 その兄弟を憎む者は
 暗黒にあり、暗きうちを歩みて己が往くところを知らず、これ暗黒はその眼を蒙ましたればなり。

二三 若子よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら主の御名によりて罪を赦されたるに因る。二三 父たちよ、我こ
 の書を汝らに贈るは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら惡
 二四 しき者に勝ちたるに因る。子供よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら御父を知りたるに因る。一四 父たちよ、我
 この書を汝らに贈りたるは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈りたるは、

イ約一四・一六を見よ
 ロ約四・一〇 羅三
 ・二五(約三・五)
 ハ約四・一四 約四
 ・四二を見よ 約一
 一・五一、五二
 ニ約三・二二、二四、
 五・三約一四・一五
 を見よ 黙二・二
 七、一四・二二
 ホ約三・五、三・二
 四、四・一三、五・
 二
 ヘ約三・四、四・七
 (約三・六、四・八)
 ト(多一・一六)
 チ約一・一六を見よ
 リ約一・八
 又約一四・二三を見よ
 ヨ約三・二、二二、
 四・一、七、一一 來
 ル約四・二二
 (約四・二二)
 タ約五 約三・二
 三、四・二一
 ヲ約一五・四を見よ
 ヲ約三・二四、三、
 一(徒一・一五)
 一約一三・三四を見よ
 ツ約一・九
 一五、四・二〇
 一(徒一・一五)
 ノ約二・一を見よ
 オ前六・一一 徒一
 三・三八を見よ
 ク約一・一を見よ
 ヤ太五・三七を見よ
 ケ約二・三 約一四
 約二・一四、三、
 一、二、五・一八、一
 九

フ弗六・一〇 弗二・三 彼前二・ 三約七(太二四) ス約二・二七 哥後
 コ約一・一〇 約五 一一 五(二四) 一・二二 八(約三・一九) 約八 一七・三 又約三・七(約七)
 ・三八(約八・三七) キ彼二七・二〇 エ約四・一三 一約二・二七(羅二 四四) 一八・三七) ト約二・七を見よ
 エ約二・一三を見よ ユ雅四・一七 (可一三・二二) 八・五) 太一三・一 二約四・三 約七 チ約一・三、四・一 ヲ約一四・二六を見よ
 テ羅一・二二 及び ヲ哥前七・三一を見よ ヒ(徒二〇・三〇) 一を見よ 約一四・ 五 約一四・二三を 撒前四・九
 雅一・二七を見よ ヲ羅一三・一一を見よ モ(哥前一一・一九) 二六 哥前二・一五 ホ約二・一八を見よ 見よ(約九)
 ア雅四・四 (提前四・一) セ可一・二四を見よ 猶五 約四・二、一五、 見よ(約九) 約三・一五、六・四
 サ羅一三・一四を見よ シ約三・二二、四 (徒一〇・三八) ロ(雅一・一九) 彼後一 五・五 約九(約 〇) 約一・二を見よ

一五 汝ら強くかつ神の言その衷に留り、また悪しき者に勝ちたるに因る。一五 なんぢら世をも世にある物をも愛すな。

一六 人もし世を愛せば、御父を愛する愛その衷になし。一六 おほよそ世にあるもの、即ち肉の慾・眼の慾・所有の誇な

一七 どは、御父より出づるにあらず、世より出づるなり。一七 世と世の慾とは過ぎ往く、然れど神の御意をおこなふ者

一八 は永遠に存るなり。

一八 子供よ、今は末の時なり、汝らが非キリスト來らんと聞きしごとく、今や非キリスト多く起れり、之によ

一九 りて我等その末の時なるを知る。一九 彼らは我等より出でゆきたれど、固より我等のものに非ざりき。我らの屬な

二〇 らば、我らと共に留りしならん。然れど、その出でゆきしは、皆われらの屬ならぬことの顯れん爲なり。二〇 汝

二一 らは聖なる者より油を注がれたれば、凡ての事を知る。二一 我この書を汝らに贈るは、汝ら眞理を知らぬ故にあら

二二 ず、眞理を知り、かつ凡ての虚偽の眞理より出でぬことを知るに因る。二二 偽者は誰なるか、イエスのキリストな

二三 るを否む者にあらずや。御父と御子とを否む者は非キリストなり。二三 凡そ御子を否む者は御父をも有たず、御子

二四 を言ひあらはす者は御父をも有つなり。二四 初より聞きし所を汝らの衷に居らしめよ。初より聞きしところ汝らの

二五 衷に居らば、汝らも御子と御父とに居らん。二五 我らに約し給ひし約束は是なり、即ち永遠の生命なり。二六 汝らを

二七 惑す者どもに就きて我これらの事を書き贈る。二七 なんぢらの衷には、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝

らに物を教ふる要なし。此の油は汝らに凡ての事を教へ、かつ眞にして虚偽なし、汝等はその教へしごとく主に

二八 居るなり。二八 されば若子よ、主に居れ。これ主の現れ給ふときに臆することなく、其の來り給ふときに恥づること
 二九 となからん爲なり。二九 なんぢら主を正しと知らば、凡て正義をおこなふ者の主より生れたることを知らん。

第三章

一 視よ、父の我らに賜ひし愛の如何に大なるかを。我ら神の子と稱へらる。既に神の子たり、世の
 二 我らを知らぬは、父を知らぬによりてなり。三 愛する者よ、我等いま神の子たり、後いかん、未だ
 三 顯れず、主の現れたまふ時われら之に肖んことを知る。我らその眞の状を見るべければなり。四 凡て主による此
 四 の希望を懐く者は、その清きがごとく己を潔くす。五 すべて罪をおこなふ者は不法を行ふなり、罪は即ち不法な
 五 り。六 汝らは知る、主の現れ給ひしは、罪を除かん爲なるを。主には罪あることなし。七 おほよそ主に居る者は
 六 罪を犯さず、おほよそ罪を犯す者は未だ主を見ず、主を知らぬなり。八 若子よ、人に惑さるな、義をおこなふ者
 七 は義人なり、即ち主の義なるがごとし。九 罪を行ふものは悪魔より出づ、悪魔は初より罪を犯せばなり。神の子
 八 の現れ給ひしは、悪魔の業を毀たん爲なり。九 凡て神より生るる者は罪を行はず、神の種その衷に止まるに由
 九 る。彼は神より生るる故に罪を犯すこと能はず。一〇 之に由りて神の子と悪魔の子とは明かなり。おほよそ義を行
 一〇 はぬ者および己が兄弟を愛せぬ者は神より出づるにあらず。一一 われら互に相愛すべきは汝らが初より聞きし音信
 一一 なり。一二 カインに效ふな、彼は悪しき者より出でて己が兄弟を殺せり。何故こころしたるか、己が行爲は悪しく、

イ約壹二・一を見よ 一八 見よ 夕羅一五・二二 彼前 一八—二〇 (約壹 才約壹三・一〇 太一 コ約壹三・八を見よ キ約壹一・五
 口約壹三・二 西三・四 ト約壹三・九、四・七、 又約一五・二一を見よ 一・三を見よ 二・二) 三・三八 約八・四四 エ約壹二・九を見よ ユ創四・八
 及び 路一七・三〇 五・二、四、一八 約 ル約壹二・七を見よ レ 哥後七・一 彼後三 ナ 哥後五・二一を見よ ク 太四・三を見よ エ 約壹二・一三を見よ
 を見よ 参一一 約一・一三 ヲ 羅八・一九を見よ 一・二四 (約壹二・二九) ヤ 約一六・一一、一二 一・八一—一〇 西三・ 一 詩三八・二〇 羅二
 ハ約壹三・二一、四、 一七、五、一四 弗 チ約壹四・一〇 約三 カ 詩一七・一五 羅八 ソ 約壹五・一七 (羅四 ム 約壹三・三を見よ マ 約壹二・二九を見よ ア 約壹四・七、一一、一
 一七、五、一四 弗 チ約壹四・一〇 約三 カ 詩一七・一五 羅八 ソ 約壹五・一七 (羅四 ム 約壹三・三を見よ マ 約壹二・二九を見よ ア 約壹四・七、一一、一
 三・二二を見よ 一六 二九を見よ (彼後 (約壹二) ヲ 約壹二・二九を見よ (雅一・二八 彼前一 二・二二) 約一三・三四、一五
 二 撒前二・一九を見よ リ 約壹三・二、一〇 約 一・四) ツ 約壹一・二を見よ ウ 約壹二・一を見よ (二二) 約一三・三四、一五
 ホ (可八・三八) 一・二二、一一、一五 ヨ 約一七・二四 哥後 約壹三・八 井 約壹二・二六 ケ 約壹三・六、五、一八 一・二二
 へ 約壹三・七 約七、 二 羅八・一四を 三・一八 後前一 ノ 約壹二・二九 フ 約壹三・一を見よ サ 約壹二・七を見よ

シ約一五・一八を見よ ス約一五・一三(約一
 二約一五・一〇(約一 〇・一一) 一ホ(約一四・二〇)
 五・二約一三・三五) イ約一三・九を見よ 二八を見よ
 と約五・二四 口(腓二・二七 撒前二 二・二六、二七 太七
 七太五・二一、二二) 八) ト約一三・一 約一三
 七約八・四四 撒二一 八雅二・一五、一六 二(申一五・七)
 二(申一五・七) ヌ約一三・七を見よ
 九約一五・一四、二、 二二
 二八を見よ 二二
 三、三、一八 約一三 〇約一〇・ 一
 二・二〇を見よ 撒 二・二二
 二・二六、二七 太七 四・一七 羅八・九、 二〇、二二)
 五・一三 四・一七 羅八・九、 二〇、二二)
 七を見よ 一四、一六 撒前四 一約一三・一八 耶一
 七約一三・三を見よ 一四、一六 撒前四 一約一三・一八 耶一
 カ約八・二九 來一三 四・一五 約六・五六 ツ約一三・七を見よ 一四、一四 後二・一
 二(申一五・七) ヌ約一三・七を見よ 一四、一五 約六・五六 ツ約一三・七を見よ 一四、一四 後二・一

その兄弟の行爲は正しかりしに因る。

一三 兄弟よ、世は汝らを憎むとも怪しむな。一四 われら兄弟を愛するによりて、死より生命に移りしを知る、愛せぬ者は死のうちに居る。一五 おほよそ兄弟を憎む者は即ち人を殺す者なり、凡そ人を殺す者の、その内に永遠の生命なきを汝らは知る。一六 主は我らの爲に生命を捨てたまへり、之によりて愛といふことを知りたり、我等もまた兄弟のために生命を捨つべきなり。一七 世の財寶をもちて兄弟の窮乏を見、反つて憐憫の心を閉づる者は、いかに神の愛その衷にあらんや。一八 若子よ、われら言と舌とをもて相愛することなく、行爲と眞實とをもて爲べし。一九 之に由りて我ら眞理より出でしを知り、且われらの心われらを責むるとも、神の前に心を安んずべし。二〇 神は我らの心よりも大にして一切のことを知り給へばなり。二一 愛する者よ、我らが心みづから責むる所なくば、神に向ひて懼なし。二二 且すべて求むる所を神より受くべし。是の誠命を守りて御心にかなふ所を行へばなり。二三 その誠命はこれなり、即ち我ら神の子イエス・キリストの名を信じ、その命じ給ひしごとく互に相愛すべきことなり。二四 神の誠命を守る者は神に居り、神もまた彼に居給ふ。我らその賜ふところの御靈に由りて、其の我らに居給ふことを知るなり。

第四章

一 愛する者よ、凡ての靈を信すな、その靈の神より出づるか否かを試みよ。多くの偽預言者、世に出でたればなり。二 凡そイエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひあらはす靈は神より出

三 づ、なんぢら之によりて神の御靈を知るべし。三 凡そイエスを言ひ表さぬ靈は神より出でしに非ず、これは非キ
 四 リストの靈なり。その來ることは汝ら聞けり、この靈いま既に世にあり。四 若子よ、汝らは神より出でし者にし
 五 て既に彼らに勝てり。汝らに居給ふ者は世に居る者よりも大なればなり。五 彼らは世より出でし者なり、之によ
 六 りて世の事をかたり、世も亦かれらに聽く。六 我らは神より出でし者なり。神を知る者は、我らに聽き、神より
 出でぬ者は、我らに聽かず、之によりて眞理の靈と迷謬の靈とを知る。

七 愛する者よ、われら互に相愛すべし。愛は神より出づ、おほよそ愛ある者は、神より生れ、神を知るなり。
 八 愛なき者は、神を知らず、神は愛なればなり。九 神の愛われらに顯れたり。神はその生み給へる獨子を世に遣

一〇 し、我等をして彼によりて生命を得しめ給ふに因る。一〇 愛といふは、我ら神を愛せしにあらず、神われらを愛し、
 二 その子を遣して我らの罪のために宥の供物となし給ひし是なり。二 愛する者よ、斯のごとく神われらを愛し給ひ

三 たれば、我らも亦たがひに相愛すべし。二 未だ神を見し者あらず、我等もし互に相愛せば、神われらに在し、そ
 の愛も亦われらに全うせらる。三 神、御靈を賜ひしに因りて我ら神に居り、神われらに居給ふことを知る。一四 又

四 われら父のその子を遣して世の救主となし給ひしを見て、その證をなすなり。一五 凡そイエスを神の子と言ひあら
 五 はす者は神かれに居り、かれ神に居る。一六 我らに對する神の愛を我ら既に知り、かつ信ず。神は愛なり、愛に居
 六 る者は神に居り、神も亦かれに居給ふ。一七 斯く我らの愛、完全をえて審判の日に懼なからしむ。我等この世にあ

イ 哥前一二・三を見よ ト 約一二・三一を見よ 三一五、一八・三七 ツ 約二・三を見よ ム 約五・一一
 ロ 約七 (約二二) チ 約三・二〇 (羅八) ヲ (哥前四・三七) ウ 約五・八、一〇 約四・二〇
 ハ 約二・二二を見よ リ (約一五・一九、一七) カ 提前四・一 ナ (約四・一六、約九
 ニ 約二・一八 (撒後 七・一四、一六) ヨ 約二・七を見よ 四・七) 見よ
 ニ・三二七) ヌ 約四・四、五、一 タ 約三・一六、一七を
 ホ 約二・一を見よ ル 約八・四七、一〇 ソ 約二・二九を見よ 見よ 約四・一〇
 ク 約二・七を見よ
 エ 約一・一八を見よ ヤ 約一・一八を見よ
 エ 約一・二二を見よ
 ユ 約四・八 (約四
 五・五 (約三・二
 三・四、二、五、一
 一〇・九)
 ア 約二・二四を見よ
 三・二四
 サ 約四・九 (約九
 三)
 シ 太一〇・一五を見よ
 エ 約二・二八を見よ

と(約書二・六、三・二、〇、二・四、五を見よ(約書二・二二、二三) ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) ナ羅八・一六加四・六 ウ約一・四を見よ
七、一六 約一七、イ約書二・九、一一を 見よ(約書二・二九、三〇) ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三
二二二) 見よ(約書二・二九、三〇) ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三
モ羅八・一五 提後一 口約書一・六を見よ 二二・三七、三九 及び カ約書二・一三を見よ ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三
ハ(約書三・一七) 約一三・三四を見よ リ約八・四二) ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三
セ(約書四・一〇) 二約書四・一二を見よ (利一九・一八) ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三
ス約書一・六、八、一 (彼前二・八) ト約書四・二、四、一 ル約書二・五を見よ ヲ太一・一・三〇 (太三・一六、一七) (黙二・一七) 井約三・一五、一六、三

一八 りて主の如くなるに因る。一八 愛には懼なし、全き愛は懼を除く、懼には苦難あればなり。懼るる者は、愛いまだ
二〇九 全からず。一九 我らの愛するは、神まづ我らを愛し給ふによる。二〇 人もし「われ神を愛す」と言ひて、その兄弟を
二一 憎まば、これ偽者なり。既に見るところの兄弟を愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛すること能はず。二二 神を愛する者
は亦その兄弟をも愛すべし。我等この誠命を神より受けたり。

第五章

一 凡そイエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり。おほよそ之を生み給ひし神を愛する
者は、神より生れたる者をも愛す。二 我等もし神を愛して、その誠命を行はば、之によりて神の子供
を愛することを知る。三 神の誠命を守るは即ち神を愛するなり、而してその誠命は難からず。四 おほよそ神より
生るる者は世に勝つ、世に勝つ勝利は我らの信仰なり。五 世に勝つものは誰ぞ、イエスを神の子と信ずる者にあ
らずや。六 これ水と血とに由りて來り給ひし者、即ちイエス・キリストなり。啻に水のみならず、水と血とをも
て來り給ひしなり。七 證する者は御靈なり。御靈は眞理なればなり。八 證する者は三つ、御靈と水と血となり。
九 この三つ合ひて一つとなる。九 我等もし人の證を受けんには、神の證は更に大なり。神の證はその子につきて證
し給ひし是なり。一〇 神の子を信ずる者はその衷にこの證をもち、神を信ぜぬ者は神を偽者とす。これ神その子に
つきて證せし證を信ぜぬが故なり。二二 その證はこれなり、神は永遠の生命を我らに賜へり、この生命はその子に
あり。二三 御子をもつ者は生命をもち、神の子をもたぬ者は生命をもたず。

二三 われ神の子の名を信する汝らに此等のことを書き贈るは、汝らに自ら永遠の生命を有つことを知らしめん
 二四 爲なり。四我らが神に向ひて確信する所は是なり、即ち御意にかなふ事を求めば、必ず聴き給ふ。一五斯く求むる
 二六 ところ、何事にても聴き給ふと知れば、求めし願を得たる事をも知るなり。一六人もし其の兄弟の死に至らぬ罪
 を犯すを見れば、神に求むべし。然らば彼に、死に至らぬ罪を犯す人々に生命を與へ給はん。死に至る罪あり、我
 二七 これに就きて請ふべしと言はず。一七凡ての不義は罪なり、されど死に至らぬ罪あり。
 二八 凡て神より生れたる者の罪を犯さぬことを我らは知る。神より生れ給ひし者これを守りたまふ故に、悪し
 二九 きもの觸るる事をせざるなり。一八我らは神より出で全世界は悪しき者に屬するを我らは知る。二〇また神の子す
 三〇 に来りて我らに眞の者を知る知識を賜ひしを我らは知る。而して我らは眞の者に居り、その子イエス・キリスト
 三一 に居るなり、彼は眞の神にして永遠の生命なり。三二 若子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。

ヨハネの第一の書 をはり

イ約三・二三を見よ	ホ約五・一八—二〇	二・二、三	レ(約二・三一、一	八、一四・九 約
ロ約二〇・三一	ヘ雅五・一六	七・一五 加一・四	七・一五 加一・四	二・二三
ハ約三・二二、二二	ト來一〇・二六を見よ	テ約五・一五を見よ	ソ約五・五 (約八・	ラ約五・二一を見よ
二・二八を見よ	チ(耶七・一六、一四・	ワ(雅一・二七、二二)	四二)	ム約二・二を見よ
二約三・二二 太七	一二)	カ約二・一三を見よ	ツ約一七・三、三・七	ウ前一〇・七、一四
・七を見よ 約一四	リ約三・四を見よ	ヨ(約一四・三〇)	ネ(路二四・四五)	撒前一・九
・二三	ヌ約五・一六(約	タ約四・六を見よ	ナ黙三・七(約一・	

四・二〇 異本「愛せずして未だ見ぬ

五・一八 異本「生れたる者は自ら守

神をいかで愛せんや」さあり。

る故に」さあり。